

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

| 市町村名 | 課題の類型 1 | 課題の類型 2 | 背景・現状・課題の詳細 | これまでの取組状況 | 左記課題の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組 | 本事業で達成する目標 (アウトカム) | 目標の達成度を 測る指標 | 現 状 の 数 値 | 単 位 | 目 標 値 | 本 年 度 の 実 績 値 | アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等) |
|----------|------------|--------------------|--|--|---|--|--|-----------------------|--------|-------------|--|---|
| 06324大江町 | ①学校運営上の課題 | 02 社会に開かれた教育課程への対応 | 全国学調の質問紙において、「地域の行事に参加している」という設問の回答が、小学校では90%台から80%台へと減少傾向にあり、中学校では50%台と低迷している。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」という設問も小学校で70%台、中学校で50%台である。このように、小中学生の地域とのかかわりについて課題がある。 | 教委・教職員地域の人と関わる活動や、地域における活動について外部支援者との連絡を密にするため、地域コーディネーターの配置により、子どもたちと地域の人がふれあう機会を増やすことができる。 | 地域コーディネーター2名のうち、1名が町内2小学校1中学校のコーディネートを担い、地域ボランティアやゲストティーチャーの活用促進を図る。また、コミュニティスクールと地域学校協働本部との有機的な連携を図っていく。 | 各学校において地域に出る活動や地域の人と関わる活動の促進はもちろん、地域における活動についても地域ボランティアの参画により、子どもたちと地域の人とふれあう機会を増やし、子どもたちの地域に対する意識を高めていく。そのことにより、地域で展開される教育活動への参画が図られ、教員の負担軽減にもつなげていく。 | 全国学力等調査において①「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いませんか」という設問に対し肯定的な回答の割合(小・中平均値) | 新規 | ①70 | ①89.8 | 03 本年 度の目標 を達成 し、課題 の改善が 見られた | 地域のために、という意識を持つ児童生徒が多い反面、放課後や週末等に地域の活動に参加しているという回答が少なかった。(小・中平均値)肯定的回答の割合は高かったが、意欲的に参加できるような活動を仕組むと同時に、周知の方法についても検討を進めていく必要がある。 |

※行が足りない場合は、非表示になっている行を再表示してください。